

(様式3)

公共事業再評価調書

番 号	道路-1	事業担当局課	道路局建設課		
事業名	都市計画道路桂町戸塚遠藤線（上倉田戸塚地区）		採択年度	平成7年度	
施工場所	戸塚区上倉田町～戸塚町		経過年数	24年	
目的及び 事業概要	<p>目的</p> <p>都市計画道路桂町戸塚遠藤線は、本市の幹線道路網の骨格となる3環状10放射道路の一つ（放射道路）に位置付けられており、環状4号線から藤沢市境を連絡する延長約10.2kmの路線です。環状3号線、横浜藤沢線、下永谷大船線、国道1号、環状4号線と連絡し、南部地域の交通の円滑化を図る幹線街路です。</p> <p>本地区の整備により、周辺地域の渋滞を解消し、交通利便性の向上が図られます。</p> <p>事業概要</p> <p>計画延長約990m、標準幅員22～33m（往復4車線）、用地面積 約19,000㎡</p>				
			当初(事業採択時)	変更(平成26年度)	変更(令和元年度)
	事業期間		平成7年度～平成13年度	平成7年度～平成31年度	平成7年度～令和7年度
	事業費	合計	11,700 百万円	14,973 百万円	15,323 百万円
		国費	5,850 百万円	8,235 百万円	8,428 百万円
		市費	5,850 百万円	6,738 百万円	6,895 百万円
	変更内容		事業費の確保が困難であったため、事業に遅れが出ており、事業期間を延伸する予定です。また、電線共同溝の整備に伴い、事業費を増額します。		
	上位計画等		本市の「中期4か年計画(2018～2021)」において、「政策 36 交通ネットワークの充実による都市インフラの強化」として、都市計画道路の整備が位置付けられています。		
関連事業		特になし。			
事業の 必要性	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>本路線の整備により、本市南西部地域の道路ネットワークが形成され、交通の利便性が向上するとともに、被災時の救命活動や初期消火対応、緊急物資の輸送機能確保が図られます。また、近年台風などの風水害による停電被害が増えており、一因となっている電柱倒壊の対策として、無電柱化への関心が高まっています。</p> <p>以上のように、交通の利便性だけでなく、防災の観点からも本地区の早期整備が望まれています。</p>				

事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)			事業全体	残事業
	割引率		4% (2%)	-
	総便益(B)		346.5 億円 (543.7 億円)	-
	総費用(C)		181.3 億円 (143.4 億円)	-
	費用便益比 (B/C)		1.9 (3.8)	-
	感度分析 [交通量-10%]		1.5 (3.0)	-
	<p>[定性的効果] 高島橋など現道の拡幅箇所は、片側歩道や幅員の狭い歩道のため、整備後は、歩行者の安全性と利便性が向上します。</p> <p>[残事業の内容] 令和2年以降は、現高島橋の下部工撤去工事及び新橋の本設工事、JRを渡る橋梁の新設など、国道1号から供用済みの桂町戸塚遠藤線(上倉田地区)まで全線に亘る道路整備を進めていきます。</p>			

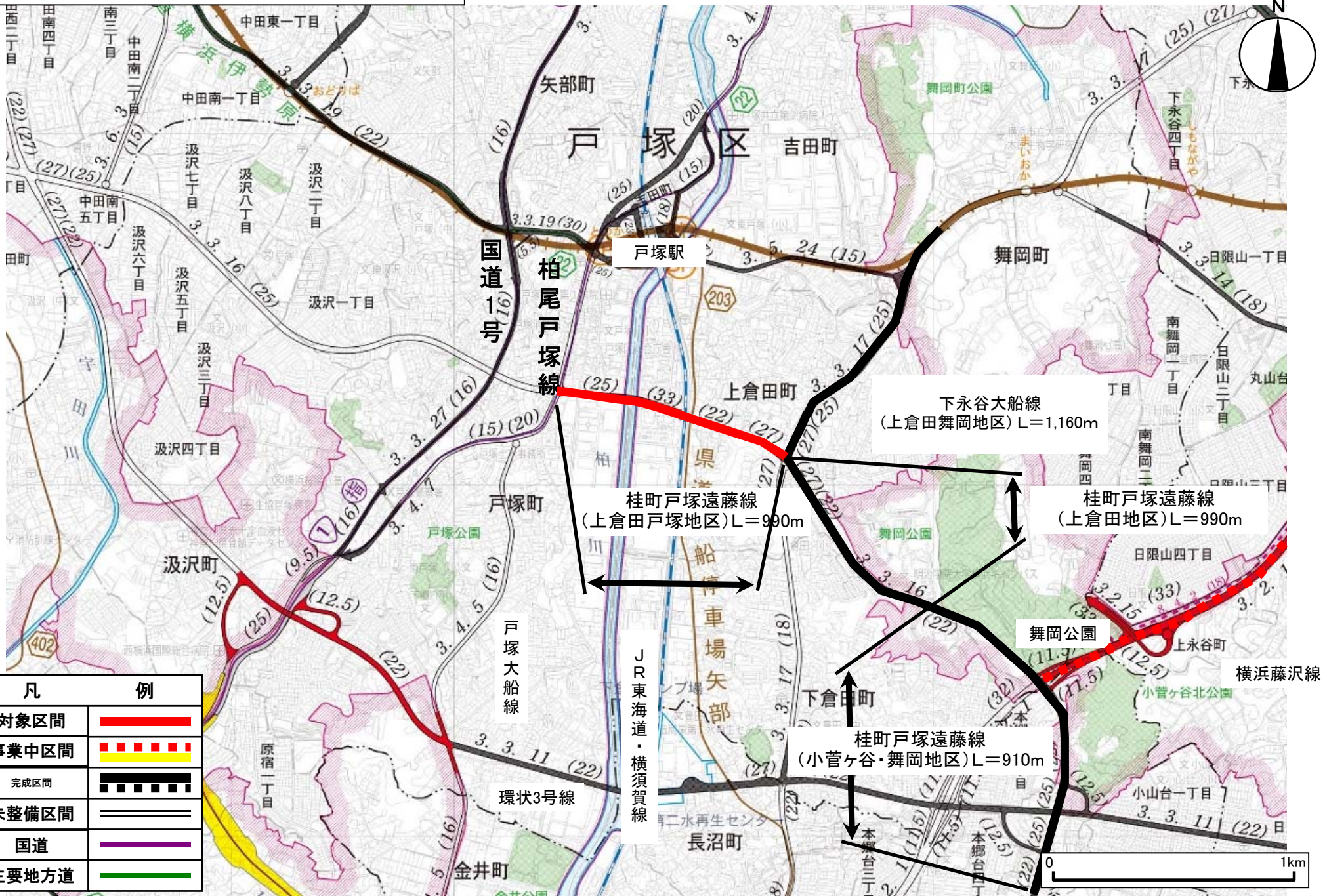
事業の 進ちょく 状況	事業進ちょく率%	平成 25 年度に高島橋架替のため、仮橋整備に着手しました。 平成 28 年度には仮橋へ交通切替えを行い、昨年度から旧橋の撤去工事に着手しています。
	51%	
	用地取得率%	
	85%	
	供用等の状況	
	未供用	
事業の課題 及び進ちょく 見込み	<p>これまで事業費の確保が課題となっていました。令和元年度から国費の重点配分事業に位置付けられたことから、今後は事業進捗がさらに向上します。</p> <p>今後、令和5年度までに用地買収を進め、工事については令和7年度に完了させるよう進めていきます。ただし、JRを渡る橋梁については、作業時間が非常に限られることから、協議や施工において多くの時間を要する懸念があります。</p>	
その他 (コスト縮減項目等)	<p>工事施工において、建設発生土の工事間流用を行い、運搬費及び残土処理費のコスト縮減を行うとともに、舗装・構造物の基礎等については、再生材を使用する等可能な限りコスト縮減に努めます。</p>	
その他		
添付資料	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
対応方針		計画通り(上記計画を実施) ※ 1
	<input type="checkbox"/> 継続	一部見直し(上記計画を変更) ※ 2
		【見直し内容】
中 止		

<p>対応方針 とした理由</p>	<p>本路線は、本市南西部地域の放射型幹線街路として重要な道路であり、本地区は JR と柏尾川により分断された地域を連絡する重要な区間で、事業完了を図る必要性は変わりません。また、交通の利便性だけでなく、緊急物資の輸送機能確保など防災の観点からも本地区の早期整備が必要です。</p> <p>あわせて、隣接する桂町戸塚遠藤線の上倉田地区、小菅ヶ谷・舞岡地区、下永谷大船線の上倉田・舞岡地区の供用開始により、より一層本地区の早期整備を望む声を市民から頂いています。</p> <p>用地取得率は 8 割を超え、昨年度より本格的に橋梁工事にも着手しているため、事業を継続する必要があると判断しております。</p>
-----------------------	--

※ 1 : 既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

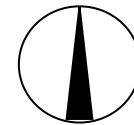
※ 2 : 今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)



凡	例
対象区間	
事業中区間	
完成区間	
未整備区間	
国道	
主要地方道	

桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)



上永谷戸塚線

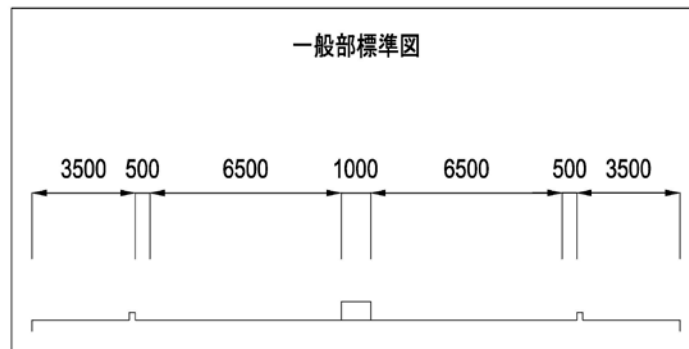
国道1号

柏尾戸塚線

柏尾川

県道 大船停車場矢部線

一般部標準図



写真②

写真①

下永谷大船線

桂町戸塚遠藤線
(上倉田戸塚地区) L=990m

桂町戸塚遠藤線
(上倉田地区)

凡	例
対象区間	
事業中区間	
完成(概成)区間	
未整備区間	

桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)①



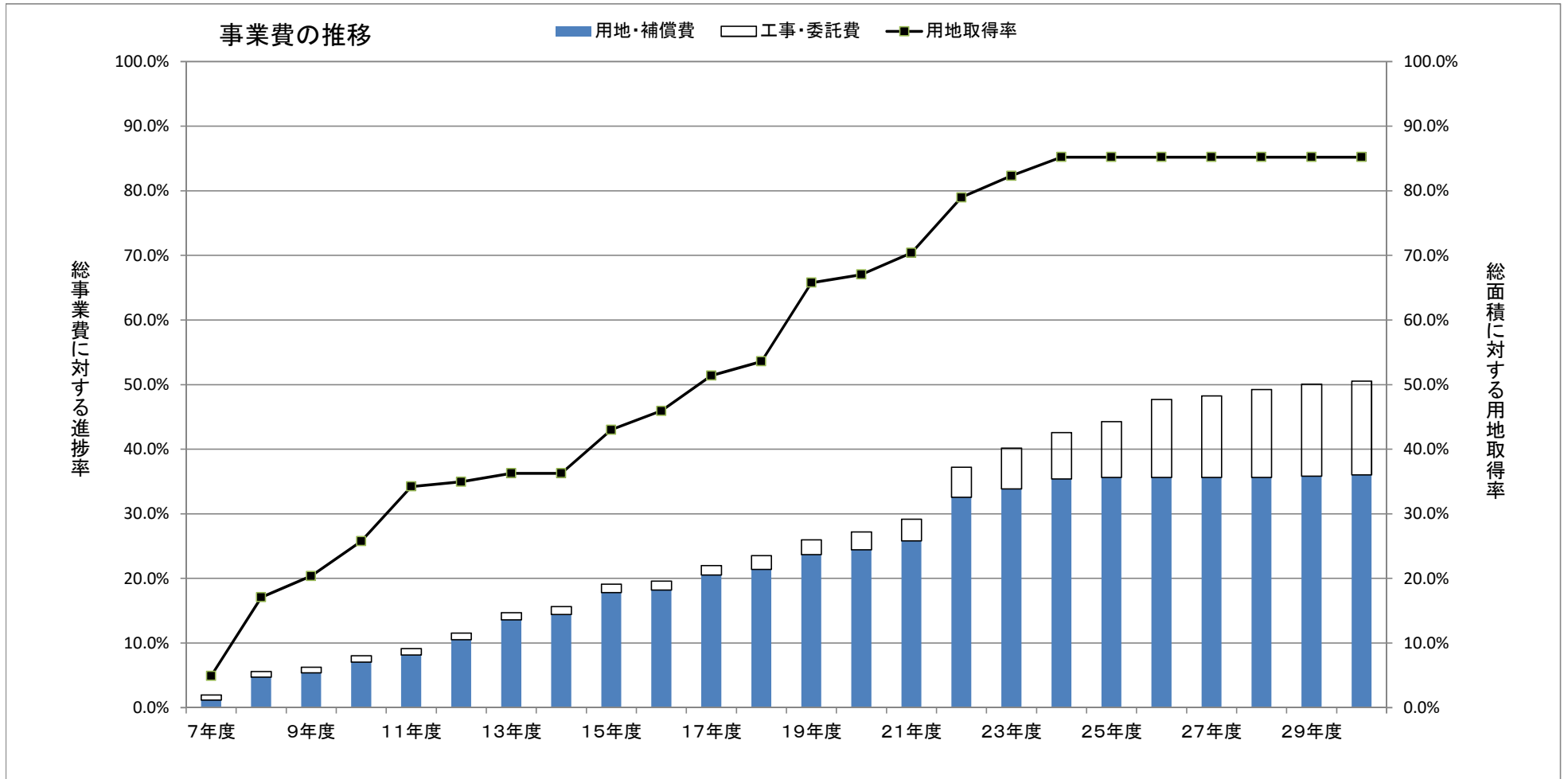
桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)②



桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)事業進捗状況

(単位:百万円)

年度	単年度事業費			事業進捗率			用地取得面積(m ²)		
	合計	用地・補償	工事・委託	合計	用地・補償	工事・委託	取得面積	累計	用地取得率
7年度	298	178	120	1.9%	1.2%	0.8%	932	932	4.9%
8年度	560	546	14	5.6%	4.7%	0.9%	2,311	3,243	17.1%
9年度	102	101	1	6.3%	5.4%	0.9%	626	3,870	20.4%
10年度	272	257	15	8.0%	7.1%	1.0%	1,022	4,891	25.7%
11年度	170	169	1	9.1%	8.2%	1.0%	1,611	6,503	34.2%
12年度	367	358	9	11.5%	10.5%	1.0%	137	6,639	34.9%
13年度	484	475	10	14.7%	13.6%	1.1%	254	6,894	36.3%
14年度	143	128	16	15.6%	14.4%	1.2%	0	6,894	36.3%
15年度	534	516	18	19.1%	17.8%	1.3%	1,274	8,168	43.0%
16年度	69	63	6	19.6%	18.2%	1.4%	555	8,723	45.9%
17年度	370	356	14	22.0%	20.5%	1.5%	1,041	9,764	51.4%
18年度	238	135	103	23.5%	21.4%	2.1%	419	10,183	53.6%
19年度	374	345	29	26.0%	23.7%	2.3%	2,312	12,495	65.8%
20年度	183	118	65	27.2%	24.4%	2.7%	240	12,735	67.0%
21年度	305	212	93	29.2%	25.8%	3.4%	637	13,373	70.4%
22年度	1,230	1,031	200	37.2%	32.5%	4.7%	1,630	15,003	79.0%
23年度	454	198	256	40.2%	33.8%	6.3%	636	15,638	82.3%
24年度	369	237	132	42.6%	35.4%	7.2%	550	16,188	85.2%
25年度	256	39	217	44.2%	35.6%	8.6%	0	16,188	85.2%
26年度	529	0	529	47.7%	35.6%	12.1%	0	16,188	85.2%
27年度	87	0	87	48.3%	35.6%	12.6%	0	16,188	85.2%
28年度	146	0	146	49.2%	35.6%	13.6%	0	16,188	85.2%
29年度	128	29	99	50.1%	35.8%	14.2%	0	16,188	85.2%
30年度	73	29	45	50.5%	36.0%	14.5%	0	16,188	85.2%
合計	7,743	5,519	2,224				16,188		



前回再評価内容との比較

都市計画道路桂町戸塚遠藤線（上倉田戸塚地区）

	前回（H26）	今回（R1）	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	隣接する桂町戸塚蕪藤線の上倉田地区、小菅ヶ谷・舞岡地区及び下永谷大船線の上倉田舞岡地区が供用開始され、本地区の整備による道路ネットワークの形成の重要性がより高まっています。	本路線の整備により、本市南西部地域の道路ネットワークが形成され、交通の利便性が向上するとともに、被災時の救命活動や初期消火対応、緊急物資の輸送確保が図られます。また、近年台風などの風水害による停電被害が増えており、一因となっている電柱倒壊の対策として、無電柱化への関心が高まっています。 以上のように、交通の利便性だけでなく、防災の観点からも本地区の早期整備が望まれています。	平成28年12月に施行された「無電柱化の推進に関する法律」第8条に基づき、平成30年12月に「横浜市無電柱化推進計画」を策定しました。
事業進捗率	45（45）%	51%	+6%
用地取得率	85（85）%	85%	+0%
供用等の状況	—	—	—
B/C	2.5	1.9	-0.6
事業の進捗見込	本地区は一部見込幅であり、店舗やアパートがあり、移転先の確保や用地境界未確定により用地交渉が未だに難航しているところがあり、用地の取得に多くの時間を要しており事業が遅れております。 また、二級河川柏尾川に架かる高島橋の架替工事に着工していますが、JR東海貨線の跨線橋工事とともに工期制約等があり時間を要しています。 今後、平成29年度までに用地買収を完結し、残工事については平成31年度までに完了することを目標に進めていきます。	これまで事業費の確保が課題となっていました。令和元年度から国費の重点配分事業に位置付けられたことから、今後は事業進捗がさらに向上します。 今後、令和5年度までに用地買収を進め、工事については令和7年度に完了させるよう進めていきます。ただし、JRを渡る橋梁については、作業時間が非常に限られることから、協議や施工において多くの時間を要する懸念があります。	平成24年度より高島橋架替のための反橋及び迂回路の整備に着手し、平成28年度には反橋へ交通切替えを行い、平成30年度から旧橋の撤去工事に着手しました。令和元年度からは、国費の重点配分事業に位置付けられたことから、今後はこれまでより進捗が向上します。